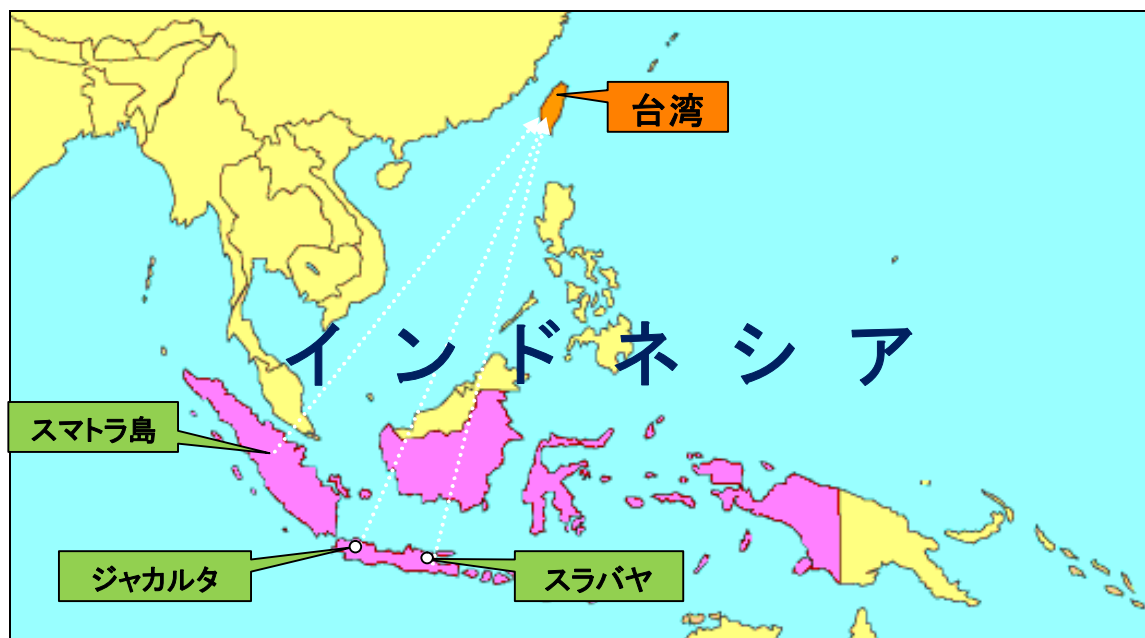


## 台湾でインドネシアからチクングニヤ熱の輸入例

2010年3月2日 ProMED 情報

(Taiwan Centers for Disease Control (TCDC))



台湾疾病予防管理センター(TCDC)は、今年になってチクングニヤ熱患者の輸入例3例を確認したと発表しました。患者は5～27歳、男性2名女性1名で、2月2～22日に発症しました。3名とも空港到着時の発熱スクリーニングで発見されました。患者の発航地はインドネシアのジャカルタ、スマトラ島、スラバヤでした。2008年および2009年の同時期は、インドネシアとマレーシアからそれぞれ1名の輸入例が報告されただけです。

台湾では、2007年10月15日からチクングニヤ熱が2類届出疾患になったことで、以降2009年末までに20名の患者が報告されました。これらは全て輸入例で、そのうち18名は発熱スクリーニングで、1名はTCDC関連検査施設で、もう1名は病院からの報告で発見されました。患者の旅行先はインドネシア(9名)とマレーシア(5名)でした。

[ProMED 調整者]

台湾には、チクングニヤ熱ウイルスの媒介蚊であるネッタイシマカが生息しているため、これらの輸入例はチクングニヤ熱が台湾に定着する原因になるのではないかと懸念されています。